



白河二中だより

NO. 11
2024. 6. 14
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

歩行者や自転車に優しくない街並

「白河二中では、自転車は右側通行するように、と指導しているのですか？」と罵声に近い口調で、電話をかけてこられた一般の方がいました。

「歩行者は右側を、自転車は左側を」と教えられ、一般論として、これまで指導をしてきました。保護者の皆さんも同様に教えられ、お子さんたちに伝えてきたのではないのでしょうか。

しかし、本校の学区における狭い道路においては、この常識では、道路混雑等のたいへんな混乱を来してしまいます。

右の図は新白河駅近くの踏切からの略図ですが、歩行者は、ローソン側に渡った後、右側通行するための横断歩道がありませんので、前後左右を確認しながら、右側に渡るしか方法がありません。

自転車も同様に横断歩道を渡りますが、車が左側に寄って信号待ちをしていますので、自転車が安全（車を傷つける心配もあります。）に通れるだけのスペースがなく、やむなく自転車を降りて歩くか、歩行者同様、ローソン側から前後左右を確認し、タイヤ館側に渡り、右側通行せざるを得ない状況です。

この道路では、子ども達は「**歩行者も自転車も自分で前後左右をしっかり確認して渡るように**」しなければなりませんし、我々運転手は、「**大人が子どもたちを守れるよう、学校の通学路であれば、なおさら、より慎重に運転**」しなければなりません。

このような状況は、この道路だけではありません。学区を歩いていると、つくづく、歩行者や自転車に優しくない街並になっているな、と感じます。



例えば、電車通勤の方々が（近くの横断歩道までは距離がありますので）「月の家」さんのところを左右を確認しながら立石方面に道路を横切っていきます。また、左の写真のように、バス停が車道近くにあり、歩行者や自転車が車道にはみ出さなければ通れないと思われる箇所もあります。

我々大人は自家用車での生活に慣れてしまい、歩行者や自転車を使用する子ども達の困り感、道路事情が様々に変わってきていることに気づかないのかもしれませんが。

指導する立場として、「右側、左側」と伝えてきたものの、現実には、この原則通りに行動することができない場所もあります。最終的には、自分の命は自分で守ること、自分で考え、自分で判断し、臨機応変の対応をするように、ということにならざるを得ない状況です。

この疑問については、警察署の交通課の方々にお伝えし、解決策を授けていただけるようお願いしています。ご家庭でも、安全な登下校ができるよう、再度、通学路の確認をお願いします。

先生の紹介

今週より、藤田薫先生が非常勤講師として勤務し、1年1組、3組、4組の理科を担当しています。どうぞよろしくをお願いします。

